

戸赤の里 花豆

講習会の成果が いい商品に つながるよう工夫

初取りは8月5日、講習会の成果が栽培者の工夫で収穫にどう反映するか、ことしの花豆がとれはじめています。「花豆パイ」はおいしいと好評で売れ行きは順調な滑り出しです。



褐色になったサヤから順に収穫



毎日少しずつ収穫し天日で乾燥させる



東京有楽町の東京国際フォーラムで開催された福島まごころフェスタの開会セレモニー

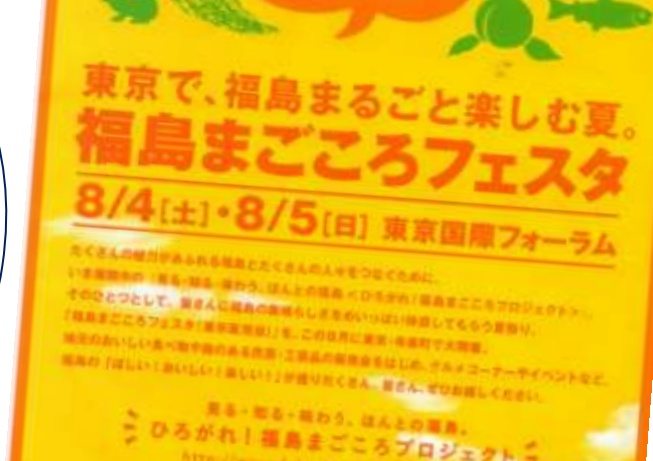


県内各方部のブースに多くのお客さんが詰めかけ盛況だった福島まごころフェスタ

参加呼びかけのチラシ



福島まごころフェスタに「道の駅」しもごうが指名され参加し、トマトドレッシング、トモチ、じゅうねん製品、地酒など出品され「花豆パイ」も宣伝されました。



【木の学習No.22】古代、中世の姓 正倉院文書「作金堂所解」天平宝字六(762)年に「轉廬工紀狛麻呂」という工人が記されている。これは木地師の姓名が記された最古のものである。百万塔は称徳天皇発願による轉廬三重小塔で、神護景雲四(770)年に完成。平城京周辺の十大寺に各十万基ずつ分置したものである。この塔には「菑部人万呂」「車持牛甘」「丈部伊波」「奏八万呂」「佐々倉荒海」「物部足人」等の人名が墨書きされているが、金子裕之はこの墨書銘を「製作に携わった人名とするのが正しいと思う」と述べている。すなわち轉廬工人の名前であるというのである。…猪苗代町木地小屋の成立に関して『新編会津風土記』には、「元龜二(1,571)年檜原村より備後、縫殿助と云木地挽二人来て其業をなす。後田圃をひらき一村となれり。家数二十七軒」とあるが、実は備後は前後姓、縫殿助は鈴木姓だということである。…蒲生氏郷以降の姓 蒲生に伴われて江州君ヶ畑から会津入りした木地頭は、『新編会津風土記』猪苗代川東組駿川野村高森の項に記載されている佐藤和泉、貞享年間白河領から気仙郡上有住村秋丸御林(現・岩手県気仙郡住田町)へ移った近江文左衛門等を挙げることができる。また、館岩村高杖の菊地家先祖は、蒲生と共に会津入りしたと系図書に見えているが、その木地挽きの師匠は、東山温泉の奥二幣地の山にいた内田籐左衛門であった。高杖の木地師の姓は近世を通じて菊地、星、佐藤、真鍋の四姓であり、明治以降小椋姓にかえた人たちであった。(会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) (つづく)

「ふくしまっ子体験活動応援事業」活用し戸赤でのびのび

震災復興支援のため交通費など県が補助しているふくしまっ子体験活動応援事業を活用して、7月24日二本松からこども園37人が訪れ、川遊び、スイカ割り、流しそうめんなど楽しんでいきました。



園の裏山が遊び場だったが室内遊びしかできず楽しみにしていた屋外でのひととき



おふろも楽しい思い出に

園児たちはいつまでも外遊びをしていたかったようです



歓声も一緒にからまっていた流しそうめん

戸赤の良さは地元の人たちには良く理解できない面がまだありそうな気がします。素泊まり方式でやま二泊開放音楽で楽しむ者の様子がまた来たいと思わせるのかもしれない。星空、山、川自然そのものを見てみると、ざくろ学校をし、好きな軽しんでいる若

ナイトハイタ協力
新聞記事に掲載

おもてなしを聞いたことが新聞に載ったほか、主催者からお礼のお便りがありました。

やまざくら学校で休憩した大戸・北公民館行事への



軽音楽で気の合う学生時代の友人10数人がやまざくら学校に2泊、5年目となることなどは布団の上げ下ろし、テント設置撤去などほとんど自分たちでできるようになっていた



出発式で説明を受ける参加者

小中高生ら夜通し歩く

「福井敏二・ふるさと」会津郡/牧屋記述 会津若松市の大田公民館(白根一里)と北公民館(吉川)と北公民館(吉川)を主催する「オーバーナイト」は13日夜から14日早朝にかけて、会津下郷から会津田島駅までの約12キロを行く。二日で行われ、小中高生ら参加者26人が参加した。

下郷～田島駅間 峠越え22キロ

「福井敏二・ふるさと」会津郡/牧屋記述 会津若松市の大田公民館(白根一里)と北公民館(吉川)と北公民館(吉川)を主催する「オーバーナイト」は13日夜から14日早朝にかけて、会津下郷から会津田島駅までの約12キロを行く。二日で行われ、小中高生ら参加者26人が参加した。

会津下郷から会津田島駅までの約12キロを行く。二日で行われ、小中高生ら参加者26人が参加した。

会津下郷から会津田島駅までの約12キロを行く。二日で行われ、小中高生ら参加者26人が参加した。

会津下郷から会津田島駅までの約12キロを行く。二日で行われ、小中高生ら参加者26人が参加した。

(花豆の学習№21) 花豆は「ベニバナインゲン」・豆類(種実)で登録された農薬が使用できます

	商品名	希釈倍数	散布液量	使用時期	使用回数
ムシ	スミチオン乳剤	1,000~2,000倍	100~300ℓ/10a	収穫21前まで	4回以内
	エルサン乳剤	1,000~2,000倍	100~300ℓ/10a	収穫21前まで	2回以内
	アドマイヤー顆粒水和剤	10,000倍	80~300ℓ/10a	収穫30前まで	2回以内
	トレボン乳剤	1,000倍	100~300ℓ/10a	収穫14前まで	2回以内
	エコピタ液剤	100倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	—
類 ムシ	スミチオン乳剤	1,000倍	100~300ℓ/10a	収穫21前まで	4回以内
	トレボン乳剤	1,000倍	100~300ℓ/10a	収穫14前まで	2回以内

(南会津農林事務所農業振興普及部資料から) (つづく)